

(仮称) 町田市地域ホッとプラン パブリックコメント実施結果

2021 年 12 月

町田市市民部市民協働推進課

町田市地域福祉部福祉総務課

(仮称) 町田市地域ホッとプランに関する パブリックコメント実施概要

2021 年 9 月に公表した（仮称）町田市地域ホッとプランについて、市民の皆さまのご意見を募集しました。

1 意見の募集期間

2021 年 9 月 15 日（水）から 2021 年 10 月 14 日（木）まで

2 意見募集の方法

◆以下の施設での資料閲覧・配布

市政情報課・広聴課（市庁舎 1 階）、市民協働推進課（市庁舎 2 階）、福祉総務課（市庁舎 7 階）、各市民センター、各連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、男女平等推進センター、生涯学習センター、健康福祉会館、ひかり療育園、子ども発達支援センター、各高齢者支援センター、各障がい者支援センター

◆町田市ホームページ及びまちだ子育てサイトにパブリックコメント実施概要を掲載

◆「広報まちだ」（9 月 15 日発行）、「町田商工会議所ニュース」（9 月 20 日発行）にパブリックコメント実施概要を掲載

◆町田市メール配信サービス、Twitter「まちだ子育て」で情報配信

3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メール、ファックス、郵送等を通じて、51 名の方から、127 件のご意見をいただきました。

ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。（おひとりから複数の趣旨のご意見をいただいた場合は、趣旨ごとに分割して集計しています。）

【項目別ご意見件数】

ご意見の対象(項目)	意見No. (掲載ページ)	件数
第1部 みんなの計画	No.1～102 (P.6～31)	102 件
第1章 計画の策定にあたって	No.1～4 (P.6)	4 件
第2章 町田市の現状と課題	No.5～9 (P.7)	5 件
第3章 計画の基本的考え方	No.10 (P.8)	1 件
第4章 リーディングプロジェクト	No.11～39 (P.8～14)	29 件
第4章全体について	No.11 (P.8)	1 件
1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト	No.12～20 (P.8～10)	9 件
2 困りごとをなくそうプロジェクト	No.21～39 (P.11～14)	19 件
第5章 目標達成に向けた施策	No.40～102 (P.15～31)	63 件
第5章全体について	No.40～43 (P.15)	4 件
基本目標Ⅰ 今を生きる自分に合ったつながりをつくる	No.44～64 (P.15～21)	21 件
基本目標Ⅰ 全体について	No.44～46 (P.15～16)	3 件
基本施策1 地域への意識・関心が高まる	No.47～54 (P.16～18)	8 件
基本施策2 「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする	No.55～64 (P.18～21)	10 件
基本目標Ⅱ つながりで地域の活力を生み出す	No.65～72 (P.21～23)	8 件
基本目標Ⅱ 全体について	No.65 (P.21)	1 件
基本施策1 多様な主体のつながりが活性化する	No.66～70 (P.21～22)	5 件
基本施策2 地域でイノベーションを起こす	No.71～72 (P.23)	2 件
基本目標Ⅲ 必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくる	No.73～102 (P.23～31)	30 件
基本目標Ⅲ 全体について	No.73～75 (P.23～24)	3 件
基本施策1 支援の輪につながる、つなげる	No.76～97 (P.24～30)	22 件
基本施策2 支援が必要な人に寄り添い、支える	No.98～101 (P.30～31)	4 件
基本施策3 支援の質を確保する	No.102 (P.31)	1 件
第6章 プランの推進に向けて	—	0 件
第2部 わたしの地区の未来ビジョン	No.103～108 (P.32～33)	6 件
計画全体について	No.109～118 (P.33～36)	10 件
その他	No.119～127 (P.36～38)	9 件
合計		127 件

【参考】（仮称）町田市地域ホッとプラン（案）の構成・内容

第1部 みんなの計画

第1章 計画の策定にあたって

（仮称）町田市地域ホッとプランの「背景と目的」、「位置づけ」、「期間」、「策定体制」

第2章 町田市の現状と課題

「統計データからみる現状」、「各種調査から見る現状」、「地区別懇談会の結果」、
「地域経営ビジョン 2030・第3次地域福祉計画の振返り」、「現状のまとめ」、
「計画策定にあたっての課題」

第3章 計画の基本的考え方

「基本理念」、「基本目標」、「基本施策」、「計画における「地域」の考え方」、
「施策の体系」、「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の実現」

第4章 リーディングプロジェクト

2つのプロジェクトの「ねらい」、「推進方法」、「関連する施策」、「各主体の主な役割」、「関連する指標」

第5章 目標達成に向けた施策

3つの基本目標の下での7つの基本施策について、「基本施策に係る主な現状と課題」、「施策の方向性」、「施策の実現度を測る指標」、「取組の方向性」、「取組施策における多様な立場の主な役割」

第6章 プランの推進に向けて

第2部 わたしの地区の未来ビジョン

今後作成予定の10地区別のわたしの地区の未来ビジョンの概要を説明

※本紙と（仮称）町田市地域ホッとプラン（案）、及び概要版は、町田市ホームページでご覧いただけます。

トップページ > 市へのご意見 > 広聴に関する取り組み > パブリックコメント
> パブリックコメントの実施結果 > 2021年度パブリックコメントの実施結果
> （仮称）町田市地域ホッとプラン（案）に対するパブリックコメントの実施結果

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shigo/kocyo/publiccomment/pubcomekekka/kekka2021/hotplan-publiccomment.html>

<ご意見の概要と市の考え>

1. 第1部 みんなの計画（102件）

（1）第1章 計画の策定にあたって（4件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	「計画の位置づけ」の中で、地域ホッとプランからの矢印の意味は基本計画に反映される事を担保すると解釈して差し支えありませんか。	「まちだ未来づくりビジョン 2040」は本プランの上位に位置づけられる市の基本構想・基本計画です。そこに掲げられたビジョンに基づき、地域のあり方を検討するのが、本プランとなります。
2	以前自治会の役員をしていた時に、市のイベントに動員をかけられることがありました。地域づくりを考える時に無理なお誘いをしないようにお願いしたいものです。	地域づくりに市民の皆様のご意見は非常に重要であると考えております。事業実施にあたり、地域の皆様には今後ともご負担のないような進め方を検討してまいります。
3	「計画統合のねらい」の「統合後」の図が漠然としすぎてわかりにくいです。結局は「みんなで解決していく」という事ですが、その「みんな」は誰かわかりにくいです。 人とのつながりが必要ですが、コミュニティの希薄化、では誰が解決に導いてくれるのですか。みんなで解決していくことを目指すと言われても「みんな」って誰でしょう。ちょっと疑問が残ります。	ここで用いられている「みんな」とは、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の、地域を取り巻く様々な主体を指しております。そのため、本プランの第5章では、それぞれの立場の主な役割を明記させていただいております。
4	コミュニティの希薄化と暮らしの困りごとを一体的に捉え、みんなで解決すると書かれていますが、壮大すぎて果たして実行できるか疑問です。	地域ではコミュニティの希薄化と相まって、従来の公的支援では課題の発見や解決が困難な問題に直面する機会が増えてきており、これまで以上に人と人とのつながりやささあいの必要性が高まっております。 こうした状況があるなか、本プランを市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の協働で進める計画とし、新たに第5章において、取組施策におけるそれぞれの主な役割を明確化いたしました。 プラン策定後は、PDCA のサイクルにより、施策・取組やリーディングプロジェクトの実施状況などの確認を毎年度行い、その結果に基づき改善を図ってまいります。

(2) 第2章 町田市の現状と課題 (5件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
5	「統計データから見る現状」の「ボランティア団体登録人数」のみ 2019 年度の実績となっていますが、2020 年度実績の掲載が難しいのでしょうか。	ご指摘いただきましたボランティア団体登録人数につきましては、今後 2020 年度の数値に修正させていただきます。
6	町田市地域ホッとプラン(案)はとてもすばらしいと思いますが、読んだだけでは深く理解することができませんでした。現状のまとめのような結果にならないようにと思います。ワークショップに参加しましたが、社会福祉協議会と同じような内容でどうして一本化できないのか、参加していてとても負担でした。いつも同じメンバーで同じことを話し合っている状態だったように思います。	地域の皆様には、今後、地区別懇談会において本プランの趣旨をお伝えするなど、今回のパブリックコメント公表以外にも本プランの説明に努めてまいります。 また、今後の計画策定に当たり、地域の皆様には、可能な限りご負担のないような進め方を検討し、実施してまいります。
7	「現状のまとめ」は正にその通りだと感じています。地域への関心も、自分の子どもが通っている学校に対してさえ関心が希薄です。困りごとに直面しない 30 代 40 代は特に市政や地域に関心が薄いのではないのでしょうか。 幼稚園や学校では「PTA は必要ない」という声が増え、自治会からは脱会者が年々増えています。「必要ない」という方も、通学路の安全保持や住環境の保全など、恩恵を受けている訳ですが、その担い手になるのは嫌だ、ということです。計画にある『自分ゴト』として地域活動に参加する人を増やす」は簡単ではありません。 この「参加する人を増やす」ために有効と思われる施策が見当たらない、ということです。	本プランでは、基本目標Ⅰにおいて、多様化する市民の価値観に合った地域活動への参加のきっかけづくりを行います。その基本施策1で、これまで地域への関心が薄かった方々の目を地域に向けるような効果的なプロモーションを行い、地域への意識・関心を高めたいと考えております。
8	現状、地域ボランティアは会員の高齢化により、組織の弱体化が進んでいます。役員のなり手がなく、意見も出ず、脱退もあり課題が多いのでは。	地域での支え合いには、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の多様な主体が連携し、地域活動を推進することが重要であると認識しております。 自分ゴトとして課題を捉え、一人ひとりに何ができるかを考え行動し続けることで地域づくりの輪を広げ、持続可能な地域づくりを目指してまいります。
9	現状のまとめの3点、「地域への関心が希薄化している」「地域のネットワークが広がっていない」「必要な人に必要な情報や支援がとどいていない」についてご指摘はそのとおりだと感じました。	これらの現状を解決していくことができるよう、本プランを推進してまいります。

(3) 第3章 計画の基本的考え方 (1件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
10	地域はもっと細分化されても良いのでは。広すぎて困ります。障がいの手続きに車もないのに遠方を指定されて困りました。せめて同じ町名、徒歩10～15分くらいでないと手続きに行けません。	本プランでは、身近な地域の相談支援機関で包括的に相談を受け止める体制づくりを検討しております。いただいたご意見は、今後の事業検討の参考とさせていただきます。

(4) 第4章 リーディングプロジェクト (29件)

① 第4章全体について (1件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
11	計画にあるようなリーディングプロジェクトがうまく機能すれば、地域が活気づいて、みんなが住みやすい環境になるように思いました。高齢者や子育て世代にも優しい市になるように期待したいです。	本プランでは、高齢者や子育て世代の方を含め、様々な主体がそれぞれに合った形でつながり、そこで生み出された活力をもとに、地域課題の解決に取り組みます。そして、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、誰もが身近な地域でささえあい、自分の役割や活躍の機会を得られ、自分らしく暮らすことができる、そんなまちの実現を目指し、本プランを推進してまいります。

② 1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト (9件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
12	リーディングプロジェクトとして「地域の『やりたい』をかなえつづけるプロジェクト」とありますが、これは既に地域に関心があり、活動したい人に向けての施策で、活動する人のすそ野を広げることにはならないと思います。 フューチャーセッションという新しい言葉がありますが、これは主体的に取り組もうという人たちの集まりであって、無関心だった人がここに参加するとは思えません。むしろ、新しいカタカナ語は、かえって人を遠ざけるのではないのでしょうか。 活動する人を増やす取り組みは、もっと違うアプローチが必要だと思います。	フューチャーセッションの手法による対話は、話し合いに終始するのではなく、話し合いに参加した人自身が自分ごととして活動を始めるのが特徴です。より多様な背景を持った人々にご参加いただけるよう、名称を含め、効果的な広報を検討してまいります。
13	リーディングプロジェクトの中で注目した言葉は「マッチング」でした。しかしながらマッチングする以前に、どういう団体が何をしたいか、何が不足し何を欲しているか等の情報が無ければ先に進む事が	ご指摘の通り、デジタルツールを活用し地区協議会の枠を超えて取り組むことは有効と考えております。地区協議会のPRとともに取り組んでまいります。

	できません。 地区協議会を例にとると、先ず地区協議会は何をする団体なのか。何をしてくれる団体なのか、未だ周知されているとは言えません。デジタルツールを活用し情報を集め、案件によっては地元の地区協議会の枠を超えて(市・他団体含め)オール町田で情報交換を行い、問題解決に取り組むことが必要と考えます。 コロナ禍で各団体での会議や集まりが難しく地域活動も細ってしまいました。こういう時こそ、知恵を出し合い問題を解決したいと思います。	
14	問題解決人という言葉がわかりづらいです。 例えば家族はそもそも問題解決の為に存在しないが多くの場合解決の主体であるといったように問題を解決しようとしていない人が解決につながることもあるので、もっと違う表現のほうが適切ではないかと思います。	「(仮称)問題解決人の寄合」では、フューチャーセッションの手法による対話を行います。これは、話し合いに終始するのではなく、話し合いに参加した人自身が自分ごととして活動を始めるのが特徴です。その特徴を分かりやすく表現できるよう、名称について今後検討してまいります。
15	地域コミュニティが希薄化に対する、具体的な方策がかかれていない。寄り合いが開かれるのは分かったが、これが市内のいたるところで、短い時間で行われるのか。 また、寄り合いという名前も少し古めかしいイメージで、もっといろんな人が気軽に集まれるところを意識するなら、もう少し変えたほうがいいのでは。	ご指摘の通り、いたるところで地域課題解決に向けたオープンな対話の場が設けられることを目指しております。より多様な背景を持った人々にご参加いただけるよう、名称を含め検討してまいります。
16	問題と課題はどう設定されているのかわかりづらいです。	現状と課題の設定につきましては、より分かりやすい表現が可能か、検討してまいります。
17	やりたい、出来ることとニーズをマッチングする、ぜひとも実施してください。	様々なマッチングの機会を創出できるよう、いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。
18	これからの地域を支える若い方に9ページの自分ごととして、フューチャーセッションの手法による対話から、アイデアを生み出していく、とてもわかりやすい取組と思います。 若い人はテレビや新聞を読まないようですが、正しい情報をSNS等、デジタルを活用して、地域活動をしていただきたいと思います。持続可能な地域づくりの例として、高齢者の移動支援サービスを解決する手法、行政だけでは解決しきれず等、共感するところです。	若い世代の地域活動への参加をどのように促していくかが大きな課題であると認識しております。そのアプローチ手法の一つとして、SNS等のデジタルの活用は欠かせないものと考えておりますので、いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。

19	忠生地域まちづくり整備計画(バリューアッププラン)という資料を入手しました。その内容を見ると「忠生まちづくり会議」を立ち上げ、地域のエリアマネジメントを進めていくという内容です。「町田市地域ホッとプラン」でいう忠生地区の未来ビジョンとなるものでしょうか。私たち協議会は、自治会ではありませんが、地域ホッとプランの「地域のやりたいをかなえ続けるプロジェクト」に参加できますか。	本プランにおける忠生地区の未来ビジョンは、2022年2月頃から開催される地区別懇談会をはじめ、数回にわたるミーティングにおける、地区協議会をはじめとする地域の様々な団体・住民の皆さまによる話し合いを経て策定されるものです。 同会議がエリアマネジメントとして地域の価値の維持・向上を図るため、住民の皆様による様々な活動を行われるのであれば、そのご意向の反映に向け、忠生地区の未来ビジョンを策定する団体・住民の皆さまとの話し合いに、ぜひご参加いただきたいと考えております。 なお、貴協議会におかれましても、フューチャーセッションの手法による対話の場を経て、課題解決プロジェクトにおける取組にご参加いただくことができます。
20	今後イベントによって出来ることがあるのではと思っています。 今住んでいる地域は団地で、住民の高齢化がかなり進んでいます。昔のような住民のつながりも薄れてきて、活気ある地域とは言い難い状況です。でも、現在桜美林大学の一部移転で学生が通っています。学生が参加するイベントが行われたり、又地域のイベントにも作品を提供して協力してもらっている事で力をもらえる気がしています。 今までやってきたイベントにも若い学生さんに参加してもらうことで、活気が戻ってくることを期待できるのではないのでしょうか。 盛り上がった楽しい行事が増えることで参加者が増え、人と人との繋がりもでき、イベント参加者へ必要な情報を伝えることや支援が必要な方を把握する機会にもなるのではないのでしょうか。 また、担い手になれそうな人を見つけることもできるかもしれません。 大きなイベントを計画するだけでなく、地域の小さなイベントにも、是非若いカタが参加してもらえるような方法や働きかけを考えていただけたらと思います。	イベントの実施は、地域活動参加へのきっかけづくりとしての良い機会と考えております。イベントへの参加者のみならず、イベントを支える方を含め、参加を通して新たな担い手の発見や、つながりづくりに結びつくよう、いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。

③ 2 困りごとをなくそうプロジェクト (19 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
21	町田市が新たに実施するリーディングプロジェクト、特に2の困りごとをなくそうプロジェクトに期待します。十分な環境にない、声をあげられない子どもたちの救いの手になることを望んでいます。	地域福祉コーディネーターの導入により、子どもを含め、支援を必要としながらも声をあげられない方を見つけられるよう、相談を待つだけでなく、自ら地域の状況などを幅広く収集してまいります。
22	困りごとをなくそうプロジェクトの「つなぐシート」「地域福祉コーディネーター」の導入は、複雑化・複合化した市民の困りごとに対して効果的な支援体制だと思いました。地域の関心、新たな担い手活動について例えば、10 地区が集まり意見交換会するなど色々と考えてみようと思いました。	市民の皆様が、身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず相談ができるよう、包括的に相談を受け止める体制を構築してまいります。
23	「困りごとをなくそうプロジェクト」は、具体性が薄く、実現への道筋が見えませんでした。 「多様な相談の受け止め」とありますが、これまで市役所に相談に行った経験から言うと、「聞いて次に案内する」という対応の繰り返しでした。サービスにたどり着く前に諦めます。ここをどう変えるのか、具体案を示していただきたいです。図解ではない仕組みの構築を期待します。	「困りごとをなくそうプロジェクト」は、身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止める施策です。 より具体的な体制については、今後、庁内関係各課、及び地域における相談支援機関によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行ってまいります。
24	「困りごとをなくそうプロジェクト」の図には「地域のプラットフォーム」とありますが、これは何を想定しているのでしょうか。「誰もが集まれる居場所」は、どんな場所、管理者を想定して書かれているのでしょうか。	市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の多様な主体が一体となり、幅広い世代、多くの関係者とともに地域の課題に取り組むことが重要であると考えております。 つながりたいと思ったときにつながるができるよう、地域の居場所となるコミュニティを創出します。コミュニティの創出にあたっては、商店やオフィス等を地域の居場所として活用できるよう、企業等への働きかけも行ってまいります。
25	リーディングプロジェクトの「困りごとをなくそうプロジェクト」についてですが、8050 問題やヤングケアラーのような分野をまたがるような困りごとを、身近なところで相談ができるようになることは大きなことだと思います。困りごとを受け止めてくれる窓口の存在は市民にとって大きな安心にもつながってきますが、そのような窓口も市民に知られていないとせっかくいいものを作っても無駄に終わってしまいます。是非ともこのプロジェクトの相談事業の周知	本プラン、及びリーディングプロジェクト等の周知につきましては、その手法を含め、今後具体的な検討を行ってまいります。 また、より具体的な周知方法に関するご意見につきましては、周知活動を行ううえでの参考とさせていただきます。

	にも力を入れていただけたらと思います。「いざという時に相談できる」身近な窓口があることを知っていることも大きな安心になると思います。	
26	「困りごとをなくそうプロジェクト」に困りごとの相談箇所が多様のため、一見で連絡がつながる冊子の作成を検討していただきたい。	
27	自治会・町内会に在籍していない地域住民に対する町田市地域ホットプランの情報共有は、どのような方法で致しますか。 町会未加入（又は全世帯）向けにホットプランの概要を基に簡単に検索できる「簡単マップ作成」を検討して下さい。	
28	困りごとをなくそうプロジェクトの狙いとして、「多様な相談の受け止め」の項目で身近な相談窓口とありますが、この窓口の機能として（分野に限らず）まとめて相談でき又連携したサービスを漏れなく受けることの出来る窓口をイメージしていますが、ひとつの窓口で対応出来るようにしてほしい。各機関へのたらい回しは、極力無い方が利用者は、ありがたいです。	身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止める体制を構築してまいります。 また、受け止めた相談のうち、課題が複雑化・複合化しており、各機関の役割分担の整理が必要な場合には、各相談支援機関に加え、医療機関やNPO法人等と協働した「（仮称）多機関協働会議」を開催し、支援の方向性を定めてまいります。その後、各関係機関から困りごとを抱える人に対し、アプローチを行うことで、たらい回しの起こらないような体制を構築してまいります。
29	文中に何度も「地域福祉コーディネーター」が出てきますが、これについての説明が見当たりませんでした。これは行政職員ですか。それとも福祉専門職の方、地域包括センターの職員の方などになるのでしょうか。この方が相談を受け取るとしたら、その窓口はどこなのでしょう。 多岐にわたる困りごとを、一人の方が担当してくれたら、たらい回しも無くなりますし、市民としてはとてもありがたいと思います。	地域福祉コーディネーターは、相談を待つだけでなく、自ら地域の状況などにかかる情報を幅広く収集し、支援が必要な潜在的な相談者を見付けます。また、相談者と継続的な関わりを持つため、定期的・継続的なアプローチを行います。さらに、支援を行うにあたって、既存の福祉サービスでは解決を図り切れない場合には、新たな社会資源の開拓や既存の資源の拡充を図り、これらの資源とマッチングするなど、一人ひとりの状況に応じた支援につなげます。
30	困りごとをなくそうプロジェクトの中で、地域福祉コーディネーターの役割について、もっと詳しく説明が必要ではないでしょうか。 また、地域福祉コーディネーターの役割として今後の計画では、10 地区にどの様に対応致しますか。適正な人員の確保が必要ではないでしょうか。	この内容は、リーディングプロジェクト 2「困りごとをなくそうプロジェクト」のうち、プロジェクト達成に関連する施策の4点目において記載しております。しかし、よりわかりやすくお伝えできるよう、リーディングプロジェクト 2 の中にさらなるご説明を付け加えさせていただきます。

31	地域コーディネーターはどのような基準で選出し、どのような位置付けになるのでしょうか。人数は何人を想定しているのですか。	なお、地域福祉コーディネーターのより具体的な体制については、今後、庁内関係各課、及び地域における相談支援機関によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行ってまいります。
32	地域福祉コーディネーターさんは、どのくらいいらっしゃるのでしょうか。少ないのであれば、現在社会福祉の分野で活躍されている皆さんの奮起も必要ではないでしょうか。 地域福祉コーディネーターさんにすべてが押し付けられるようなことにならないように進めてもらいたいと思います。	
33	リーディングプロジェクト 2「困りごとをなくそうプロジェクト」の地域福祉コーディネーターについて、このような方々が地域で活躍していただくには、そもそも地域の顔の見える関係があつてこそ、コーディネーターが情報を取得しやすくなり、活きるものであると思います。 地域では自治会町内会の加入世帯数が減少しているなか、地域で顔の見える関係ができるよう力を注いでいただきたいと思います。	地域福祉コーディネーターの役割には、支援を必要としながらも声をあげられない方に対して、相談を待つだけでなく、自らアプローチを行う仕組みづくりを検討しており、その点で地域の方からの情報提供も相談者を見つける重要な手段であると考えております。 そのため、地域に住む市民一人ひとりのつながりから、情報を得られるような仕組みづくりを行ってまいります。
34	地域福祉コーディネーターの働きについて、「地域の情報を幅広く収集し支援が必要な潜在的な相談者を見つけます。」とありますが、支援関係者との連携だけで潜在的な相談者を見つけることはかなり難しいと思います。 相談者が声をあげることができる方法、そして声を上げられない人達を見つける方法も具体的に検討して頂きたいと思います。	ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
35	資源とのマッチングについて、既存の資源はどのようなものでその連携はうまくいっているのでしょうか。 また、新たな社会資源の開拓ではどのような分野へのアプローチを予定していच्छいますか。	既存の資源につきましては、リーディングプロジェクト 2「困りごとをなくそうプロジェクト」のうち、プロジェクト達成に関連する施策の4点目の図表において記載しており、社会福祉協議会や NPO 等があげられます。資源とのマッチングにあたり、まずはそのような方々や団体と連携する仕組みを構築してまいります。 また、新たな社会資源の開拓につきましては、8050 問題やダブルケアなどの、既存の公的支援や社会資源では解決を図り切れない場合に行うことを想定しております。

36	リーディングプロジェクト 2「困りごとをなくそうプロジェクト」について、高齢の私にはプラットフォームにフューチャーセッションを取り入れてなど横文字が多く分かりづらいというのが感想です。 みんなの計画であれば、万人がわかる計画にすべきでは。	リーディングプロジェクト2「困りごとをなくそうプロジェクト」において、プラットフォームの注釈を加えるとともに、フューチャーセッションの説明をしているリーディングプロジェクト1「地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト」への導きを追加いたします。
37	全般的にととも読みやすく、わかりやすいものになっています。内容もこうなったらいいだろうというものになっています。「プロジェクトイメージ」などはリーフレットにしてほしいくらいです。 理想が現実(実現)になる事を少しでも理想に近づけるように進んでほしいです。 町田に住んでいてよかったという町・街づくりにしたいです。	基本理念の実現に向け、本プランを推進してまいります。
38	多機関・多職種会議などが十分に機能していないと思います。 事業を円滑に実施するためには情報交換を検討することが必要です。支援会議のメンバーは NPO 法人や社会福祉法人、地域課題を抱える住民への支援に従事されている方達が集まって、地域住民に対する支援体制について検討をすることが、町田市は必要かと思います。それぞれの会議で話し合われていますが、情報等を統一する場がありません。	本プランでは、各分野の相談支援機関に加え、医療機関やNPO法人等と協働した「(仮称)多機関協働会議」を新たに開催し、複雑化・複合化し課題に対する支援の方向性を定めてまいります。
39	コーディネーターと呼ばれる役が各所に配置されていますが、やはりたて割りで横につながりが持てずにいると感じます。 コーディネーターには経験とスキル、センスも問われており、背負う負担も大きく、様々なコーディネーターが集える場やスキルをみがく機会、研修もあるとよいです。	本プランでは、分野を跨ぐ困りごとを抱える潜在的な相談者を把握するため、新たに地域福祉コーディネーターを導入してまいります。 導入にあたっては、既にご活躍いただいている高齢者支援センターの生活支援コーディネーターや、市民協働推進課のおうえんコーディネーター、民生・児童委員や社会福祉協議会などとの連携が必要であることを認識しております。 情報共有の手法や、研修等のより具体的な体制については、今後、庁内関係各課、及び地域における相談支援機関によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行ってまいります。

(5) 第5章 目標達成に向けた施策 (63 件)

① 第5章全体について (4 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
40	全体指標に対する現状値と目標値が未記載ですが、進捗状況の確認はどのように行うのでしょうか。 また、目標値が不明確だと、次期計画改定(策定)の際に、本計画が施策をどこまで成し得たのか、現状の把握がし辛くなるのではないのでしょうか。 反対に、本計画があくまで「全体的なビジョン」を示すものなら、あえて現状値と目標値をハイフンとせずに指標のみでもよいのではと思います。	指標の現状値及び目標値は、最新のものを反映できるように現在集計中であり、今後お示ししてまいります。
41	第5章は、コピペして、少し文言を変えただけで、きちんとプランニングされたものではないのでは？と思いました。特に「取組施策における多様な立場の主な役割」を読んで、そう感じました。 この「主な役割」ですが、市民・地域活動団体の主な役割が「地域に目を向ける・興味を持つ」となっています。 興味を持つためには、何か働きかけが必要なのですが、そのことは計画の中に具体的に書かれていないのですが、「地域活動に関する効果的なプロモーション」の部分と合わせて具体的に教えていただきたいです。	「取組施策における多様な立場の主な役割」は、個々の取組みについて、検討し作成したものでございます。 「地域活動に関する効果的なプロモーション」では、訴求ターゲットに合わせて最も効果的な情報発信の方法や内容を選択することを想定しております。 また、本プランではフューチャーセッションの手法を用いた課題解決プロジェクトを予定しており、その参加者を集める過程においても効果的な方法を検討してまいります。
42	具体策を盛り込むのに苦労しそうですね。現場任せにならないことを望みます。	本プラン第5章の「取組の方向性」をもとに、地域の皆さまとともに具体的な取組を進めてまいります。
43	組織(分担組織)が盛り込まれると分かりやすく(相談しやすく)なります。	本プラン第5章には「取組の方向性」を掲載しており、各方向性について相談しやすくなるよう、市役所の担当部署を記載しております。

② 基本目標Ⅰ全体について (3 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
44	「基本目標Ⅰ」: 人の基本的欲求“自己実現欲求”に根差すものと認識します。しかし、「やりたい事」との「マッチング」には自身の例からすれば、現実の生活を考えると、「本来のやりたい事」とはかなりの乖離が生じています。	本プランでは、地域活動に関する動機付けの部分を重視しております。必ずしもマッチングに結びつく事例ばかりではないかもしれませんが、1人1人の意識の変化を大切に考えております。

45	「基本目標Ⅰ及びⅡ」：普通、人間は誰でもしている事、近隣住民と朝晩の挨拶、友人や気の合う仲間と語り合い、さらに、朝の散歩から近くの公園でラジオ体操、集まった人々でのお茶会等、これらは、地域における組織作りの前段階で、町内会や自治会へ繋がる原点です。問題はこのあたりの状況がだんだん希薄になっている事です。	ご指摘のとおり、様々な社会状況の変化により、これまであって当たり前であった人と人との会話やコミュニケーション、また、つながりといったものが希薄化しつつあると認識しております。
46	基本目標は、ⅡとⅢはそのとおりだと思いますが、Ⅰは行政の関わりが難しい分野だと思いました。	ご指摘のとおり、個々人が「自分ゴト」として地域の活動に関わるといった、個人の内面に働きかけるアプローチは、行政機関が行う取組として困難を伴う側面があると認識しております。しかし、地域活動や、それに向けたきっかけづくりとして、訴求ターゲットに応じた効果的なプロモーションを行う等様々な手法により働きかけてまいります。

③ 基本目標Ⅰ－基本施策1 地域への意識・関心が高まる（8件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
47	「1既に地域とつながっている個人の今後の(地域との)あり方」「2(地域と)つながっていない個人と地域とのつなげ方、つながり方」「3(地域とこれから)つながろうとしている個人のつなげ方」についての問題・課題、解決策には言及していますが、「4(地域とこれからも)つながりたくない、もしくはつながらなくてもいいと考えている個人と地域とのつなげ方」については書かれていないと思います。地域コミュニティとつながりを持ちたくない個人の対応について、今後ますます重要度を増すと思われます。地域・コミュニティと「つながっている」、「つながっていない」の2極化から、「つながらなくてもいい」という第3極の問題解決も必要となっていく、今後の宿題となりそうです。	地域とのつながり方に関する考えは、人により違っていると認識しております。一つの価値観の押し付けにならないよう、それぞれにあった形で地域とつながり、地域力を上げていけるよう方策を模索してまいります。
48	58 ページには「鶴川図書館のコミュニティ機能を強化する」とありますが、この鶴川図書館ができたために鶴川団地図書館が閉鎖されることになり、今、存続を求める住民活動が行われています。団地図書館の閉鎖は、人のつながりが持てる地域のプラットフォームを一つ閉鎖することです。	それぞれの分野を所管する各部署における施策は、当然にそれぞれ異なるものですが、市として一貫した考えをもとに推進しております。今後、より一層、各部署間の連携等を進め、市民の皆様から理解を得られる施策を進め、信頼される市役所を目指してまいります。

	せつかくの住民活動の結末が地域の人々の居場所をひとつ奪うことで終わったとしたら、地域に関心を持ってくれている人の今後の活動の芽を摘むことになるのではないのでしょうか。 計画を立てている方にとっては、別部署の動きと感じ、関係ない話かもしれませんが、市民目線では「一方で居場所を作ると言い、他方では閉鎖すると言う」、「市の施策はチグハグで信頼できない」と感じてしまいます。	
49	先日、自治会のイベントのために市民協働推進課に伺いました。自治会についての窓口はこちらだと聞いて伺ったのですが、「イベントのための公園の使用は公園緑地課に行ってください」となりました。結局、自治会をサポートしてくれるはずの部署には「いつどこでどんな自治会が活動するか」という情報は伝えることはなく、公園緑地課にだけ書類を提出しました。一体、市民協働推進課は何をすることなのかだろうか？という疑問が生じました。日々のこのようなズレの積み重ねが、地域の活動に関るのは億劫だと感じさせ、活動から離れさせる面があると知っていただきたいと思います。	町内会・自治会の皆さまをはじめ、地域で活動される方々の想いやそのご苦勞を理解し、地域の皆さまとともに本プランを推進していけるよう努めてまいります。
50	コロナで地域の繋がりの希薄化が加速されている今、地域で活動するボランティア団体は大変重要な役割を担っていると思いますが、スタッフの高齢化、固定化したメンバーで、SNS の利用が出来ない現状があります。その為、広報不足から各団体の活動を知らない市民が多いことを実感しています。地域活動の団体紹介に手を貸してくれるシステムがあればいいかと常日頃から感じています。	基本目標Ⅰの基本施策1「地域への意識・関心が高まる」の下、地域活動に関するより良い情報発信に取り組みます。また、町田市地域活動サポートオフィスでは、SNS や紙媒体の「サポートオフィス通信」などで NPO 等の地域活動に携わる団体について紹介しております。その他、市民協働フェスティバル「まちカフェ！」の活用等、様々な団体活動の紹介方法を提供してまいります。
51	ホッとプランを拝見し地域を生かした地区単位の取り組みに期待しております。細長い町田の地形は地域環境が異なり、それら特徴を若い人々につなげていくことが難しいが大切なこと。それにはやはり市民が動かないと始まらない。このプランも市民が動く為の関係機関（行政）の支援であるのだから、市民を動かす方法を考えないといけないと思った。時間をかけて市民にアピールし、困っている人にまでしっかり伝えないといけない。 この町が好きならば自分から市からの情報にも敏	若年世代には SNS やオンラインサロン等注目の高いツールを用いて地域とつなげていくことを考えております。 「まちだをつなげる30人」など、多様な立場の人が自分ごととして地域に関わってほしいと思えるような取組を進めてまいります。

	感になるはずだと思う。生きることには精一杯の人にどう伝えられるか問題だと思う。	
52	どうしたら市民へ伝えていけるかも課題だと思います。町内会、自治会に加入していない方々も多いので、地区協議会を知らない方も多く、よく、何？と聞かれることがあります。子育て中の方達にも協力していただきたいと思います。	地区協議会の周知については、活動報告会の開催のほか、広報まちだ、市HP及び市民協働フェスティバル「まちカフェ！」での紹介等の支援を市として行っております。引き続き、地区協議会と連携し、その方法の検討も含め支援を行ってまいります。
53	社会福祉協議会・地区社協・地区協議会など、どのような役割をし、活動をしているか、住民の方はまだまだ知らない方が多いと思います。市民にどのように伝えて行くことが必要か。	現在、「まちだ社会福祉だより」や地区協議会便り等を通じて、活動を広報しておりますが、若年世代にはデジタルツール、高齢世代には紙媒体といった、各世代に合わせた方法での周知が必要と考えております。
54	ネットワークを広げるために地域に入ってみたらどうでしょうか。広報の配布にしても、新聞をとっている人も少なくなっている様なので…。ショッパーのように全家庭に配布し町田のことをもっと知ってもらうとできないでしょうか。 いろんなイベントを行っていても知らない人が多いのでは残念です。決めるのは市で中心になって行動していくのはどこですか。	第5章の「取組施策における多様な立場の主な役割」において、各主体が果たす役割について掲載しております。また、フューチャーセッションの手法による対話は、話し合いに終始するのではなく、話し合いに参加した人自身が自分ゴトとして活動を始めるのが特徴です。より効果的な広報、及びフューチャーセッションの手法による対話を通して、地域に関わる人を増やしてまいります。

④ 基本目標Ⅰ－基本施策2 「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする（10件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
55	地域活動を行うにあたり、活動に助言やスーパーバイジングを受けられる仕組みをつくってほしい。 住民の主体的な地域活動を行うにあたり「どのように活動組織をつくるか」、「地域のニーズや課題に整合的な活動を行うにはどうすればよいか」など団体自体ではなかなか見えてこない部分が少なからずあるかと思います。団体や個人をサポートしうる協議会、連絡会、自治学習の場、専門家等の助言が得られる機会等を整備する必要があるように思います。また、活動・団体組織のチェック機能なども公益性に伴って必要と思われます。単にネットワークによる相互的なものだけでなく、シンクタンク的な第三者的にサポート、助言、チェックできるような組織も念頭に置いていただきたい。	ご指摘のように、一活動団体や個人のみでは見えない部分については、町田市地域活動サポートオフィスや町田市社会福祉協議会等の組織が、団体の活動やその組織体制等のより良いあり方に関しての助言等を行っていくことが必要と考えております。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。

56	集合住宅に住んでいると、地域とのつながりは原則ない。单身の方、金銭的に困っている家庭に、料理を作りすぎてしまった時に、差入れできるような機会があると良い。自分の居住地をあかさずに、その都度差し入れ or もらうことができる制度があれば、ご飯を食べられない人が減るのでは。ひとり親のお弁当配りより、ターゲットが増え、公平な気がする。	ご指摘の地域とのつながりづくりにつきましては、基本目標Ⅰ「今を生きる自分に合ったつながりをつくる」における事業の検討の参考とさせていただきます。
57	不要なものを市内でうまくまわせる制度があったら良いと思う。 景品や他者からの差し入れでもらった物は意外と使えない。おむつの残りとか、未開封の化粧品とか、他の人に役立つものを、うまく give and take でまわしたい。役所の一角に案内を作ってもらって、欲しい人があらわれたら寄付する(ネットでもOK)。	ご提案につきましては、自分にとっては不要なものを他に役立てる、あるいはごみの減量につなげる意義があると考えます。今後の事業検討の参考とさせていただきます。
58	3つの基本目標に示された「つながり」や「必要な人への支援」というコンセプトは非常に共感できます。その上で意見を申し上げれば、既に社会団体やボランティア団体などに所属されて活躍されている方々は良いとして、潜在的能力がありながら、地域つながり戦力予備とも言うべき人の発掘をどうするか視点もあると思います。想定層は地域とのアルバイト求職者、定年直前または定年後の者、子育て一段落した者などが考えられます。 昨今は、フルタイムや長期間での拘束を嫌う傾向もあることから、1時間単位でのショートジョブ、公共施設でのお手伝い程度からエントリーできれば良いかと思います。類似の年代の方々とマッチングも良いかと思います。同様に困っている外国人にも、外国人を充てるのが良いと思います。	新たな担い手が登場する機会をどのように作っていくか、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
59	61 ページには防災課や市民生活安全課の取り組みが書かれています。防災リーダー育成のための講習会などは、開催の時間等が固定されていて、参加が難しいという声を聞きます。 講習や地区懇談会には様々な人が参加します。その人の属性で参加できる日程はおおよそ限られます。全日程が平日午前のみなら、参加できるサラリーマンはほぼいません。	全ての方が都合のよい日程等の設定は困難ですが、自主防災組織リーダー講習会に関しては、過去にいただいたご意見を参考に、週末に実施しております。 地区別懇談会、その他各種講習、訓練等に関しても、多くの方にご参加いただけるよう、今後もより良い日程等の設定を検討し、実施してまいります。

	関心を持つ人を増やしたり、活動する人を増やしたりするためには、時間や場所も含めてこれまでとは違う計画を考えていただきたいと思いました。	
60	地域の中に集まる場、遊べる場があるといい。小さな町内や自治会の中にあれば小さい単位でまとまれる居場所になればいい。すぐ近ければ人は行ってみようかと思うはず。市民が動くことが大切だと思う。小さな集まりの中から支援を望んでいる人や困っている人が見えてきたり、情報が出てくると思う。様々な種類の小さな集まりを大切にしたら良いと思う。 支援をしっかりとってもらうのが行政機関の役目で支援を搜すのが市民の役目なのかなと思う。	居場所の確保については、ソフト・ハード両面において重要な意義を持つと考えております。ご指摘のように、小さな集まりを大切にすることで課題の解決につながられるよう、いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。
61	いろいろな会議に出て、どの会議でも同じ面々ということがある。活動の担い手がないなど広がらないということと思われる。どうしたら広がるか方策を考えてほしい。	基本目標Ⅰやリーディングプロジェクトを通し、より多様な背景を持った人々が地域活動に関わることをできるよう検討してまいります。
62	地域が今何を必要としているか、どうしたら良いか。町田市民の為、非常に良く考えられたホッとプランと思います。 地域それぞれ異なると思いますが、いろいろな委員会、協議会、サロン、ボランティア等、顔ぶれが同じような方が重複協力しているようです。そのため、一体的な策定は良いと思いますが、今後の課題として、一人でも多くの方に参加していただくことはもちろんですが、世代交代をどうしていくか、どの地域でも現場では厳しい現実ではないでしょうか。	地域での活動を行う様々な団体等において、メンバーの高齢化、固定化が課題となっていると認識しております。 これについては、基本目標Ⅰの基本施策1「地域への意識・関心が高まる」の下、様々な形で活動に参加される方が増え、世代交代もスムーズに行われるよう、各活動団体の皆さまと連携しながら、市として取り組んでまいります。
63	近頃、町内会や自治会の役員のなり手不足と同様に民生委員のなり手もなかなか見つかりません。「地域がささえ合い、誰もが自分らしく暮らせる様に」を実現させるためには、地域ごとの現状や課題を把握しなければならないと思います。そのためには、それぞれの人達が地域活動に参加しやすい環境である事が望ましいですね。 特に「災害発生時」においては、地域における人と人とのつながりが必要となるので、両計画を統合する事によってコミュニティの希薄化を個人や家族の暮らしの困り事が一本化されれば皆で解決出来るし良いと思います。	基本目標Ⅰの基本施策1で地域への意識・関心を高める、また、基本施策2でマッチング等の手法によりつながりを生む取組を進め、地域活動に参加しやすい環境づくりに努めてまいります。

64	日頃より、地域住民が活動に参加しやすい環境づくりは大事だと思っています。 地区協議会、地区別懇談会等に参加した事もありますが、なかなか積極的な進展がみられないのが、現状のようです。自分達にとって暮らしやすい地域作りは小規模な自治会体制では出来ないと思います。	暮らしやすい地域づくりについては、市域又はそれ以上の広域のエリアで取り組まれるべき事柄と、町内会・自治会や小学校・中学校等の比較的狭いエリアでの取組が適切な場合があると考えております。町内会・自治会の取組だけではなしえない暮らしやすい地域づくりについては、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の多様な主体が知恵を出し合い、力を合わせ取り組んでいけるよう、ご指摘を計画策定に向けた参考とさせていただきます。
----	---	--

⑤基本目標Ⅱ全体について（1件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
65	「基本目標Ⅱ」：つながりや活力を生み出す施策のⅠ・Ⅱについては当然の事であり賛成です。	いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。

⑥基本目標Ⅱ－基本施策1 多様な主体のつながりが活性化する（5件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
66	私たち、小山田桜台街づくり協議会は、町田市住みよい街づくり条例に基づく地区街づくり団体として20年活動している分譲住宅の管理組合を中心とした団体です。 このたび、はじめて「地区協議会」という協議体が存在することを知りました。私たちに、地区協議会へ参加の呼びかけがあつてしかるべきと考えていますが、町田市からの呼びかけはありませんでした。 地区協議会へ参加するには条例登録団体以上の特別な要件が必要なのでしょうか。自治会組織となることが要件とも聞きました。どのような手続きや根拠で決定しているのかを含めて教えてください。 私たちは、小山田桜台をより良くしていこうと仲間を増やし、子ども達に向けた活動を行うなど、活動のテーマが多岐にわたってきました。「地区の未来ビジョン」に私たちも一緒に参加させていただきたいと思います。	「地区協議会」は、地区の特性及び資源を活かして地区の課題を自ら解決し、かつ、地区の魅力の発信及び向上に主体的に取り組むことを目的とする多様な主体によるネットワーク組織です。市内10地区において設立されており、各地区の町内会・自治会の地区連合会の会長を代表者に、少なくとも町田市青少年健全育成地区委員会及び町田市民生委員児童委員協議会の各代表者が参加していることを要件にしております。 上記の構成員のほか、どのような主体に参加いただくかは、各地区協議会のご意向次第であり、構成員に変更があつた場合は市に届け出ていただく手続きとなっております。これらのことは、市の要領に定められております。 本プランにおける各地区の未来ビジョンは、2022年2月頃から開催される地区別懇談会をはじめ、数回にわたるミーティングにおける、地区協議会を中心に地域の様々な団体・住民の皆さまによる話し合いを経て策定されるものです。策定の話し合いに参加のご意向があることを承りました。

67	プラン案の中で「地区協議会」の役割がかなり大きいように感じたが、地区協は、地区によってかなり温度差があるように思える。地区協の果たすべき役割を今一度確認する必要性を感じている。地域住民への認知度が低いというのも気になる。	各地区の実情等に応じ、地区協議会がそれぞれのあり方、役割のもと活動を継続されているものと認識しております。「地域住民への認知度の低さ」につきましては、市としても引き続き地区協議会や地区の魅力発信を支援してまいります。
68	毎年、地区懇談会を各地区で開催していますが、話し合うのみで提示された課題をどこで取り上げているのか分からず、その結果、南ではプロジェクトを起ち上げて実際に課題解決に取り組んでいます。 ただ、高齢者・障がい者の各支援センターや子育て相談センター等守秘義務を持つメンバーで構成されているにも拘わらず、個人情報に縛られて問題は提示されても実名が出せず、お互いにアドバイスし合うのみで、複数で解決の実施に至らない問題があります。 これからの住民問題解決では、もっと柔軟性を培わないと命に係わる問題があっても対応が遅れてしまう可能性大と感じます。	それぞれの支援機関、支援団体におかれましては、個人情報保護制度を遵守し業務を行っていただいていると思います。ご指摘のとおり命にかかわる支援などにおいては、柔軟性も必要となつてまいります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
69	現状と課題を様々な角度から検討してみると、解決方法の一つとして、町田市全体の組織(各地域ボランティア)と考えて行く時期になっている。 具体的には、市の職員を入れた組織とし、地域の課題を検討・議論し、必要な事から実施していくこと。今考えられることは、市内の全世帯を対象とした組織です。市と一体化した組織とする。(市の理解・各団体・市議会の承認等が必要)	オール町田として一体となり、地域づくりを行っていく必要があることにつきましては、ご指摘のとおりと考えております。 リーディングプロジェクト 1「地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト」において、様々な立場の方をお招きし対話する場を設ける取組も、この趣旨によるものです。 ご提案いただきました具体的な組織づくりにつきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
70	自分ごととして地域への関心を持ち、つながりを作ることが必要と多くの方が感じているものの、実際に行動できる人は少ない。地区別懇談会と地区協議会がリンクしている様子が伝わらない。	2021年度の地区別懇談会は、地区協議会を中心とした地域の活動団体の皆さまや、事業者、若年層など、多様な主体のご参加を求め、社会福祉協議会及び市が連携して開催いたします。 これまでの地区における活動を振り返るとともに、今後10年程度先の地区の将来像とその実現に向けた具体的な取組についてお話し合いいただきます。 現在想定している地区別懇談会と地区協議会の関係については上記のとおりです。

⑦基本目標Ⅱ－基本施策２ 地域でイノベーションを起こす（２件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
71	私(60代)の育った時代は、そもそも人と人の距離が近かった気がします。 町田市 10 地区の地区協議会を中心にこのプランを策定されるのであれば、現在子育て現役中のパパ&ママを地区協議会の会員にしては。 会員まででなくても「リサーチャー」の役からの参加も良いと思います。現在コロナ禍で会議等、情報交換はネット環境を利用しているので、若い人達の参加がし易いと思います。そこで若い人達を射止めるには、まずは子ども達が楽しめる企画を定期的に行い「地区協議会」の存在を広く周知して貰う必要が有ると思います。地区協議会で以前開催したハロウィーンのスタンプラリーを町内会とコラボ企画して幼児でも参加出来る範囲で行う事は出来ないでしょうか。そしてホッとプランと共に子育てパパ&ママを地区協議会に巻き込んで「地域が好き」に育てて欲しいと思います。	コロナ禍における地域活動のあり方を含め、既存の活動に新たな参加者をお招きする工夫を検討いたします。いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。
72	町田市は弱体化している町内会・自治会、民生など地域ボランティアに依存しすぎているのではないのでしょうか。 職員が積極的に参加・地域をリードしている時代です。色々な話し合いの中から、人流が今以上に活発化、地域の人材もその中から生まれてくるのではと考えています。	地域の活性化や地域による自治の推進を図るため、市は町内会・自治会をはじめとする地域の活動団体に対する各種支援を行っております。 市と地域との対話を重ねていくことで、地域による自治を損なわないよう、行政の役割を見極めながら、引き続き、様々な話し合いの場に臨んでまいります。

⑧基本目標Ⅲ全体について（３件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
73	基本目標Ⅲの内容はほぼ賛同できます。 基本目標のⅠ・Ⅱで培われ、養われた地域住民の、生きる事への楽しみや充実感を醸成する事が可能ならば、その連帯感が地域に必要な人材と支援を導き出す事に繋がると思います。	各施策を着実に推進することで、人と人とのつながりを生み出し、困りごとを抱える人への適切な支援につながるような循環を生み出していきたいと考えております。
74	「つながる、つなげる」、「寄り添い、支える」はずっと活動上での課題でした。今までのことを振り返って変更しつつ計画されていること、すばらしいと思いました。目的、理想に向かって結果を出すため	つながりづくり、ささえあい活動は地域で活動いただいている皆様のご意見、情報提供が最も重要と考えております。引き続きいただいたご意見を各施策に活かしてまいります。

	には、現状の市民を把握し、現場で活動に関わっている委員の要望や意見を大事にしていきたいと思います。	
75	「基本目標Ⅲ」の町内会、自治会、民生児童委員、青少年健全育成、民間 NPO 法人等各種の人権擁護活動団体等は、今後、税収減少国家の日本に大きな行政は望めません。人手が足りない社会への備えは市民相互で補う方向で超高齢化社会を迎える日本の最重要課題を解決すべきとの意味と解釈します。	高齢化が進展する中、地域ではコミュニティの希薄化や従来の公的支援では解決が困難な問題に直面する機会が増えております。 そのため、市としても、これまで以上に、様々な担い手による地域のささえあい活動が重要であると考えております。

⑨基本目標Ⅲ－基本施策 1 支援の輪につながる、つなげる (22 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
76	第5章の目標に向けた施策、Ⅲ-1 支援の輪につながる、つなげる指標に「地域福祉コーディネーターが地域のつながりから相談支援に結び付けた件数」とありますが、潜在的な相談者を把握するうえで核となる、地域福祉コーディネーターの人数確保も指標となりえるのではないのでしょうか。	地域福祉コーディネーターの指標につきましては、単に人数を確保することを目的とするのではなく、地域福祉コーディネーターの活動による効果を指標といたしました。
77	本計画の終了時の 2040 年度には市の人口約 39 万の内で高齢は約 14 万人の予想ですが、これを支える地域住民が如何ほど必要かの検証の為、高齢者 1 人の年金を支える就労者数を示す事と同様、この計画における「見守りの対象者」と「見守りに参加させる住民」の数値を確認・検証する事は、これからの施策に於いて重要な指針と思われる。その試算もお示し下さい。	本プランは、町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン 2040」を上位計画とし、計画期間を 2022 年度から 2031 年度までの 10 年間としております。 国では、高齢者人口の増大、現役世代人口の急減という新たな局面における課題に対応するため、「地域共生社会」の実現に向けた体制整備を進めております。地域共生社会とは、「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のことを指します。本プランにおいても、同様の考えのもと、作成しております。 いただきましたご意見のとおり、当市における 2040 年の将来人口推計では人口約 39 万人のうち、高齢者人口は約 14 万人になりますが、高齢者は、若年者に見守られる対象に加え、見守り

		に参加する地域の多様な主体の一つと捉え、作成しております。 本プランにおける「見守りの対象者」と「見守りに参加させる住民」の数値の確認・検証はしておりませんが、ご意見の趣旨につきましては、今後、本プランの個々の施策を進めるうえで、参考にしてまいります。
78	計画の中に、「若い人たちに向けて SNS を活用し…」のように書かれていましたが、SNS で知ることと、行動につながることは全く別なので、情報が伝わったからOK、ではないと思います。 町田市としての施策であるなら、小学生や中学生に向け、教育現場で、積極的に地域と関わる機会を増やしていくことはできないのでしょうか。総合学習の一環として、福祉事業者との交流や介護予防サポーターの講習などが行われていますが、年間に2～3時間です。 もっと長い時間、ボランティア活動に参加する機会が必要なのではと思います。しっかりと主体的に関わることで、「自分でもできる」や「誰かの役に立てて嬉しい」など、ポジティブな教育効果にもつながると思います。その延長に、情報が届けば、地域活動に参加する市民が増えていくのではないのでしょうか。	いかにして自分ごととしての地域活動参加につなげるかを目的に、基本目標Ⅰの基本施策 1 に掲げる情報発信を行ってまいります。 いただいたご意見は、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
79	コロナ禍の中、日本でパラリンピックが開催されました。 障がいをもった方達の奮闘ぶりを観て、今までいただいていたちょっとの差別目線が変わった人々も多くいたのではないのでしょうか。 町田市には障がい者施設、町田の丘学園等があります。垣根を越えた交流、イベント、スポーツなど、できたらいいのではと考えます。	ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
80	74 ページの「まちだ子育てサイト」ですが、LINE や twitter で周知しても、欲しい情報が載っていないとすぐに見なくなります。 市が主催・後援しているイベント以外にも、子育てに役立つ講演会など、子育てサイトには掲載されません。内容から刷新を考えた方が良いと思います。	ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただき、よりよいサイト運営に努めてまいります。

81	玉川学園・南大谷地区でグループ数、人数共に増加しているのが「町トレ」参加者です。グループ内で一人が休むと皆で心配する見守りグループでもあり、地域活動の活性化や見守りを考えるとき「町トレ」の拡大を考えるのも一つの方策ではないかと思います。 必要な人に必要な支援が届く仕組みには、地域間での人のつながりが大切です。「町トレ」はいつまでも元気でいたい高齢者が集まっており、今までとは変わった馴染みのない顔が多く、人の輪を広げるのに役立つと思います。	ご意見いただきました通り、支援を必要とする人に必要な支援を届けるためには、地域における人と人とのつながりが不可欠であると認識しております。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
82	健康被害の事例として、近年、住居内の寒暖差を原因とした「ヒートショック」の死亡者数は、交通事故の死亡者数を大きく上回っており、高齢者における「ヒートショック対策」は、大きな社会的課題となっております。そのため以下のとおり提案いたします。 基本目標Ⅲ-1-(2)-②のNo.6の記載に賛同する立場から、以下のとおり追記してほしいです。 地域活動団体と連携し、健康寿命の延伸を阻む食や健康の問題に対して、市民が自主的に健康づくり、及び健康被害防止に取り組めるよう、地域ぐるみで予防と注意喚起に取り組みます。	高齢者に限らず、ヒートショックの予防は特に血圧が高めの方には、注意をしていかなければならない重要なこととして捉えております。そのため、まずは、高血圧を予防するために、減塩教室などの健康教育に努め、ヒートショック予防につなげてまいります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
83	「孤立化」に対しての公的支援制度を確立した上で地域での共助的な支えあいを考えていただきたい。 「孤立化」の問題は深刻であることをふまえて、公助としての支援体制を計画的に整備する必要があります。 高齢者・貧困世帯・外国人・障がい者・LGBTなどのマイノリティは、地域活動という共助からは見落とされやすい存在です。そうした地域の支えあいでの盲点となりがちな「孤立化した住民」への公的機能の整備はさけて通れません。 孤立した人へのニーズと課題を可視化して、地域で共有するとともに、地域社会へのコミットメントが難しければ支援できるポータル、制度、機関について、国・都の制度や支援機関との連携を図っていけるよう計画に明記していただきたいです。	困りごとを抱える人の社会的な孤立は、行政としても課題であると認識しております。このことは、リーディングプロジェクト2「困りごとをなくそうプロジェクト」にも記載しております。個々の問題が深刻化する前に相談できる環境を整えるため、これまでの参集型の居場所に加え、外出ができない状況にある方でも参加できるよう、デジタルの居場所も活用するなど、地域の居場所の充実を図ってまいります。 より具体的なことについては、今後、庁内関係各課、及び地域における相談支援機関によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行ってまいります。

84	大事なことは、困っている家庭が困っていると声を挙げられることだと思います。市役所に連絡しても、たらいまわしにされることもあり、また、自分が忙しいと、それどころではありません。 行政が介入してくれれば助け合いはできると思います。 地域包括支援センターや子どもセンターをうまく利用して、担当分野をはずれても情報の提供、交換ができると良いと思います。	困りごとを抱える人の社会的な孤立は、行政としても課題であると認識しております。このことは、リーディングプロジェクト2「困りごとをなくそうプロジェクト」にも記載しており、支援を必要としながらも声をあげられない人等の潜在的な相談者を、必要な支援につなげることができるよう、地域福祉コーディネーターを導入してまいります。 併せて、身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止める体制を構築してまいります。
85	自治会に入っていない世帯、特に高齢者世帯は役員が回ってきても活動出来ない為、自治会に入らないと言う人がかなりいます。年金暮らしや生活保護受給者にとって自治会の年会費が負担だと言う人もいます。 高齢化が進む中で、本当に支援を必要とする人こそ近隣との交流をしてほしいと思いますが、そうした人々を拾い上げる支援にも目を向けてほしい。 ホッとプランには盛り込めないでしょうか。	
86	つながりで地域の活力を生み出すから始め、必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくるは大切なことだと思うが、いま自己責任主義が蔓延している日本で、気軽に人に相談できる体制づくりを始める必要がある。それには「相談していい」、「人は協力しあう」など幼児期からの教育が大切で、生活上の具体的な相談場所などを知る教育が大事です。 大人は「困ったときは、お互い様」で、「相談しやすい」地域にしていける必要がある。それには地域の交流が必要で、地域のちょっとした所に自由に休める場所が出来ると良い。 また、積極的に地域の学校や町内会、子ども100番の家、民生委員、児童委員、包括支援センターなどと、定期的に交流する場が必要と思う。それには市内全 10 地区に地区協議会の設立とあるが、その下に支部として山崎地域くらいがまとまりやすい。 また、地域格差が生じないように行政の協力体制、特に人の確保をしてほしい。	ご指摘のとおり、気軽に人に相談できる体制づくりやちょっとした居場所、交流する場は重要なことと考えております。市の体制を含め、必要な検討を行い、計画を着実に推進してまいります。

87	76 ページ「見守り・支えあい活動の推進」の児童青少年課の記述に、「ボランティアが、地域ぐるみで子どもの見守りを行う放課後子ども教室『まちとも』を実施します」とあります。「まちとも」スタッフは現在、謝礼が出ていると思うのですが、これは有償ボランティアという意味でしょうか。それとも今後、無償のボランティアにしていきたい、ということでしょうか。	まちともは、学校や地域の方で構成する運営協議会が実施しており、見守りにご協力いただいているボランティアのスタッフには、運営協議会から謝礼をお支払いしております。今後、ボランティアへの謝礼を無償とすることは予定しておりません。
88	困りごとの相談窓口が一つに統一され、そこから相談内容によって振り分けられるのは、大変便利になると思いますが、地域住民が相談しやすいと感じて頂くには、高齢者や障がいを抱える人たちが行きやすい場所に相談窓口があることが必須条件だと思います。町田は南北に長いので、相談拠点を数か所に設けてほしいと希望します。つなぐシートはすばらしい取り組みだと思います。ぜひ実行してほしいです。	困りごとを抱える人が身近な地域で相談できることの重要性につきましては、行政としても認識しております。このことは、リーディングプロジェクト2「困りごとをなくそうプロジェクト」にも記載しており、身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止め、迅速かつ確実に適切な支援機関に引き継ぐことができるような体制を構築してまいります。
89	困りごとを抱えている人がどこに相談していいかわからないということをよく聞きます。ワンストップ窓口など、ここにまず相談すれば、という場所を作ってほしいです。 特に今は複合的な困りごとも多く出ているため、そこから必要な機関へ迅速に伝え、解決へ導けるようにしてほしいです。	身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止める体制を構築してまいります。 また、受け止めた相談のうち、課題が複雑化・複合化しており、各機関の役割分担の整理が必要な場合には、各相談支援機関に加え、医療機関やNPO法人等と協働した「(仮称)多機関協働会議」を開催し、支援の方向性を定めてまいります。
90	相談しやすい窓口が一本化になれば相談・参加がしやすくなるように思います。	
91	時代の変化と共に、核家族化が進み、地域とのつながりも薄れ、家族問題は多様化しています。その中で私は子ども問題がとても気になります。不登校(学校へ行かれない)、いじめ、自殺、虐待、貧困等多岐に渡ります。そして命にかかわる問題にもなり、とても胸が痛くなります。 問題解決には、子どもだけではなく、その周りにいる人々、家族等を含め、さまざまな対応、対策・支援が必要とされます。 現在、地域には、高齢者支援センター、障がい者支援センター、子どもセンター、学校には専門のコーディネーター等もいます。児童相談所、病院、警察署等もありますが、これは縦割になっている	町田市では市内 5 地域にそれぞれ「地域子育て相談センター」を設置し、育児相談や子育てサークル活動の支援などを行っております。 また、2021 年 7 月から堺地域と町田地域の相談センターは、乳幼児の親子や子どもが多く訪れる「子どもセンター」に移転し、0 歳から 18 歳までの子どもの居場所と相談支援機能を兼ねた切れ目のない支援を行っております。なお、他の 3 地域についても、順次併設を進めていく予定です。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。

	様に感じます。 大人が相談するだけでなく、子どもみずから、もっと安心して、自由に気持ちを伝えられる場所、環境作りが必要ではないかと考えます。 相談があれば気軽に連絡を受け、支援センターへ繋げ、情報の共有もでき、民生委員も安心した活動ができています。子どものいる家庭にも、このようなシステムができたらと考えます。 子育ての間は、問題も多く大変です。子どもも親も安心して生活ができる事を願います。個人情報が必要になり、実際は難しいかと思います。子ども世帯に手を差しのべられる身近な相談機関があるといいなと考えます。	
92	支援が必要な人に寄り添い、支えるについてですが、行政は何事でも申請主義で、個人では知らないことが多すぎます。知っていても手続きが大変です。行政が相談を受けやすくなればよいです。「相談しやすい」町田市にしてほしい。 それには役所の人員が足りないのではないのでしょうか。 地域の見守りは大切だと思うが、家庭内のことは相談しづらい、相談を受けづらい。高齢者支援センターや民生委員の方がいて、ちょっとは安心できるが、行政の支えと全面的な協力体制が必要だと思います。	必要な支援が届いていない方を必要な支援につなげられるよう、新たに地域福祉コーディネーターを導入することで、市民からの申請を待つだけでなく、自らアプローチを行い、市民の方が相談しやすい環境を整えてまいります。 この周知につきましては、手法を含め、今後具体的な検討を行ってまいります。
93	近所付き合いなど、個人情報の壁を感じることもある。個人情報保護、その意味をとり違えている場合も。それをたてにして、地域とのかかわりを持つとしない方もいる。地域のつながりの大切さをどう伝えるか、課題と思う。	地域とのつながり方に関する考えは、人により違うと認識しております。それぞれにあった形で地域とつながり、地域力を上げていけるよう模索してまいります。
94	民生児童委員として感じることです。相談したくてもどこに相談していいかわからない人が少なからずいる事実です。 私たちは専門職ではないため自ら解決するのではなく、相談内容によって関係機関に連絡するという大きな役目があるにも拘らず、機能してないのかと気になります。 もっと広報に力を入れるべきなのか、更に何のために存在しているのか疑問にも感じるところです。	地域でのささえあい活動には、民生委員・児童委員さんのお力だけではなく、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の多様な主体とともに協働で実施していくものであると考えております。今後とも、より身近な地域で活動されている民生委員・児童委員さんのご支援をいただきながら施策を進めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

95	だれもが地域で困った時にもつながりながら生活できることを実現できるようなプランだと思いました。 地域内のどこに困っている人がいるかわからず、コロナ禍で思うように活動することができませんが、これからも地域でお世っかいを続けていけたらいいなと思います。	困りごとを抱える人を必要な支援につなげられるよう、地域での見守り活動を促進してまいります。 今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。
96	困りごとを抱える人を属性に捉われず包括的に捉える為、各地域別に存在している協議会・活動団体等の情報を共有するため「困りごとを抱える人」に特化したネットワーク会議の開催を提案致します。	分野横断的な支援を円滑に行うことができるよう、必要に応じて分野を跨ぐ相談事例等の報告を行う連絡会を開催してまいります。
97	79 ページ「(仮称)ふくしあさん」ですが、具体的にどのような方の業務になるのかが書かれていないです。もしボランティアだとしたら、民生委員もなり手がないという現状を考えると、なり手を探すのも苦労されるのではないのでしょうか。 「やらなければいけない仕事なら、ボランティアではなく有償であるべき」と考えている人は、意外に多いです。どうしたら関心を持って参加してもらえるのか、ということを真剣に考えて実行する施策が必要だと感じていますし、そのための計画を立案していただきたいです。	「(仮称)ふくしあさん」につきましては、町田市社会福祉協議会で検討している事業でございます。 地域で活動されている経験豊かな方に、困りごとを抱えている人を把握し地域福祉コーディネーターと協力し支援機関につなぐ役割を担っていただくことを想定しております。 なお、ボランティアを含めた地域活動への参加につきましては、基本目標Ⅰにお示ししております。

⑩基本目標Ⅲ－基本施策 2 支援が必要な人に寄り添い、支える（4 件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
98	82 ページ「ひきこもりの状態にある方への支援」で、不登校の生徒への学習指導がありますが、学習指導の前に、外に出る機会を増やすことを支援して欲しいと考えます。平日日中、子どもセンターやひなた村などで、不登校の子どもが過ごすのはダメなことでしょうか。市の施設で過ごそうと出かけて断れた方がいます。 まず家から出ないことには、困りごとを抱えていることも、解決に向けてのアプローチをすることもできないと思います。青少年施設は、どんな子どもに対してもいつでも開かれているように施策の一つに加えられないのでしょうか。	子どもセンター・子どもクラブや子ども創造キャンパスひなた村等の子どものための施設においては、既にすべての子どもたちがいつでも気軽に遊べる環境の場の提供を行っております。

99	子どもがいても学区内の学校に属していないので、町田市の情報が全く手に入りません。町田市の教育委員会等のサイトにアクセスしても公表していないため、地域で子どもの友達を探したり、作ったりすることができません。行政を主体に同じ年の子どもを集めて学ぶことのできる取り組みがあると良いです。出来れば日曜日に、ご飯つきだと、ネグレクト家庭の子も助かるのでは。	地域の子どもたちが安心して遊ぶことができるよう、子どもセンター・子どもクラブや子ども創造キャンパスひなた村といった施設や自分の責任で自由に遊ぶ「冒険遊び場」などがあります。 また、地域の子どもが集まる子ども食堂の情報の周知にも取り組んでおります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
100	成年後見制度について、高齢者の財産管理を適正に行うために、地元金融機関との連携協力が必要であると痛感しています。 財産管理のプロである金融機関を高齢者の財産管理に貢献させることは、日本社会における今後の大きな課題であると思います。 市民が安心して相談利用できる組織をつくり、市内の金融機関と連携して、各金融機関の店舗などに無料相談窓口を設置すると有効ではないかと思ひます。さらに、そうした組織を通じて、市民に対してセミナーなどの啓発活動を行い、後見制度をはじめとする高齢者福祉に対する関心を高めることも可能かと思ひます。	町田市成年後見制度利用促進協議会で委員の皆様と検討しながら、金融機関を含めた他機関・他団体と連携を強化してまいります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
101	成年後見制度の計画と再犯防止の計画を包含しているとのことですが、これらについて法律根拠は記載がありましたが、第5章でいきなり出てきており、第5章冒頭に計画策定の背景等、少し説明を加えたほうが読み手にとってはわかりやすいと感じました。	成年後見制度利用促進基本計画、及び再犯防止推進計画につきましては、策定の背景が分かるよう、説明を追加させていただきます。

⑪基本目標Ⅲ－基本施策3 支援の質を確保する（1件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
102	包括的支援を行うためには、様々な機関同士の連携が必要になり、協議する場が必要なことは理解できるのですが、市民は「〇〇協議会」の名称の多さに、混乱しています。様々な役割があつて、このように似た名称が増えているのだと思うのですが、それぞれの名称のわかりにくさ、何をやっているところなのかわからない、ということも活動につながらない理由だと思ひます。	協議会の活動内容を分かりやすくお知らせするなど、広報の仕方を検討するとともに、地域の皆様が活動に参加しやすい環境づくりに努めてまいります。

2. 第2部 わたしの地区の未来ビジョン (6件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
103	地域で支え合いながら、誰もが住み良い環境でなければならないと思います。 地域によっては、それぞれの課題があるとは思いますが、その地域での最良の方法を考えて、それを実行していく事が大切だと思います。 民生児童委員としては許される範囲でお手伝いできればと思っています。	地域での支え合いには、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の多様な主体が連携し、地域活動を推進することが重要であると認識しております。 経験豊かな地域で活動されている皆様にご意見をいただきながら、地域活動に参加しやすい環境整備を整えてまいります。
104	「(仮称)町田市地域ホッとプラン」P102 に記載されている「地区の未来ビジョン」は、「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」P138 のコラムに書かれている内容のことですね。行政部署間の連携が進んでいるのですね。 是非、町田市からは、団体間のつながりや変化する市民活動に柔軟に対応した支援をお願いいたします。	「(仮称)町田市地域ホッとプラン」における「わたしの地区の未来ビジョン」は、市内 10 地区ごとに開催する地区別懇談会で、いただいたご意見をもとに地区の将来像や目指す地区の姿を描くものです。 一方、「町田市住みよい街づくり条例」に基づき策定する「まちビジョン」は、より小さな「地区」の単位で、街づくりに関する将来像を描くもので、都市づくりのマスタープランのコラムに書かれているものは、「わたしの地区の未来ビジョン」のことではありませんが、両プランとも連携を図って進めてまいります。 また、団体間の市民活動の支援においては、今後とも、地域で活動する機会の充実を図るとともに、地域活動がより活性化するよう支援を継続してまいります。
105	「(仮称)町田市地域ホッとプラン」の「地区の未来ビジョン」は、「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン」P137 で示されている実現プロセスの中ではどこに当てはまるのでしょうか。 決定するビジョンの内容やプロセスは、地域の住民は知ることができるのか疑問に思いました。	「(仮称)町田市地域ホッとプラン」における「わたしの地区の未来ビジョン」は、市内 10 地区ごとに開催する地区別懇談会で、いただいたご意見をもとに地区の将来像や目指す地区の姿を描くものです。 そのため、都市づくりのマスタープランに書かれているものではありませんが、両プランとも連携を図って進めてまいります。 また、10 地区別の地区別懇談会でいただいたご意見や、10 年後の地区の将来像や目指す地区の姿を描く「わたしの地区の未来ビジョン」につきましては、その内容やプロセスを公表してまいります。

106	10 年、20 年後の町田の未来ビジョンを考えるには、若い世代の意見が反映されるようにしてほしい。夫婦共働きなど、忙しく自分たちのことで精いっぱいという人も少なくない。 負担に感じずプラン案の中にも書いてあるが、自分ゴトとして地域を考え、アクションできるようなしくみを考えてほしい。	第二部のわたしの地区の未来ビジョンの作成にあたっては、より多くの若い世代や子育て世帯の方にご参加いただけるよう、周知方法を含め検討を行ってまいります。
107	町田第二地区の「わたしの地区の未来ビジョン」 町田第二地区は、地区の未来ビジョンとして更に進化させるためのフューチャーセッション手法を活用し、地域の継続事業として定着させるべきだ。	いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。
108	大変素晴らしい内容です。「地区別のホッとプランは今後作成予定」に期待します。	「地区別のホッとプラン」は、第2部「わたしの地区の未来ビジョン」に掲載させていただく予定ですが、これは市内10地区別に開催する地区別懇談会でいただいたご意見をもとに、地区の将来像や目指す地区の姿を描くものです。 「わたしの地区の未来ビジョン」の実現に向け、活動を行う地域活動団体等に対し、支援を行ってまいります。

3. 計画全体について（10 件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
109	「やりたい事」を叶える為の計画を実現する可能性は否定しませんが、現実に協働への参加を、実行している人々の事情を推察しますと、果たして「やれる事」としての、意志と理解だけで、福祉の為に参加、協力する住民が如何ほどの人数になるか、未知数です。 さらに、欧米のボランティアにおける義務の権利化方式で、現在町田市社協が実践する“いきいきポイント”の様な制度の拡大版つまり、他人への救済が将来自分自身に還元されるシステムを十分に検討し取り入れるべきです。まさに、「情けは人の為ならず。」です。	自分ゴトとして課題を捉え、一人ひとりに何ができるかを考え行動し続けることで地域づくりの輪を広げ、持続可能な地域づくりを目指してまいります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
110	総論として、今回のプランは前回の第3次計画とは内容、作り方（見せ方）が明らかに異なっていると思います。 これまでの計画は、現状把握－課題・問題点－	本プランは、行政だけでなく、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会等の多様な主体とともに実施していくものであり、地域の多様な主体の皆様に分かりやすく、共感いただけるよう、計画

	解決のための施策という手順で、如何にも定番の「行政が作った計画」というものでしたが、このプランはそこから脱した感じがします。構成は同じに見えても、作る側の視点が行政側から市民側の位置に立っており、これまで以上に「市民の視点」から問題点を把握し、その問題の解をどこに求めるのかを考えているように感じました。 また、同様の計画の1本化を行い、無駄を省き、また、脱行政用語、文章表現の分かり易さについても以前より配慮しているようにも思えました。	体系や表現等において、「市民の視点」から策定作業を進めてまいりました。 引き続き「市民の視点」に立ち、計画の策定及び推進に努めてまいります。
111	「行政サービスはここまでしかできません」と、大きな声で伝えることも必要かと思えます。「つながり」「対話」「ささえあい」という、自助・共助が無いと安心して暮らすことができない、という事実を、もっと理解してもらうことで、「自分たちでやらなければ」と思うのではないのでしょうか。 多くの方は、困ったら行政がなんとかしてくれると思っています。例えば、災害時に避難施設に行けばなんとかなると。住民が自分でやらなければなりませんよね。それと同じように「みんなで解決する」というきれいごとではなく、「行政だけでは、福祉事業者だけでは、解決できることではない」「ホッとするためには市民が力を出し合わない無理」と明確に伝えていただきたいです。	地域ではコミュニティの希薄化と相まって、従来の公的支援では課題の発見や解決が困難な問題に直面する機会が増えてきており、これまで以上に人と人とのつながりやささえあいの必要性が高まっております。 こうした状況があるなか、本プランを市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市の協働で進める計画とし、新たに第5章において、取組施策における多様な立場の主な役割を、市民・事業者、地域活動団体、行政・社会福祉協議会ごとに明確化いたしました。 今後は、このような背景も含め、いただいたご意見も参考にし、本プランの周知を図ってまいります。
112	計画主体である市役所が目的実現に向けて果たす使命はわかりやすく具体的に明示してほしい。一番はじめにまずはそれを記載するのはどうですか。	本計画における市の果たす使命は、地域の市民や地域活動団体、事業者等が地域生活課題を把握し解決できる体制整備づくりに努めること、また地域住民等の複雑化・複合化した支援ニーズに対する包括的な支援体制を構築することと考えております。 市では、人と人がつながり、多様な価値を尊重し合うことで、誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会の実現を目指してまいります。 なお、当内容は第1章でお示ししております。
113	本プランでは、これまでの地域福祉計画とは異なり、「地域」の中の構成員の役割が明記されており、すごくメッセージを感じております。 私は地域で商業を営む者として、地域の一員であることを認識し、何かしら貢献ができることがない	今後、本プランを市民、地域活動団体、事業者等に周知を図り、みんなで推進できるよう、取り組んでまいります。

	か考えさせられました。このプランが市内で多くの市民、事業者に浸透し、みんなで推進できるよう、取り組まれますようよろしくお願いします。	
114	このような素晴らしい計画を市民に理解し、実行に協力してもらうためにも、8050 問題、ダブルケア、プラットフォームやアウトリーチにデジタル空間（場）などには用語説明が欲しいものです。	用語解説は、計画末尾にまとめて掲載しております。しかし、用語解説のあるものが分かりやすいようにするため、「＊」を表示します。
115	10 月 15 日版の「広報まちだ」の一面を飾った内容はとても良いと思いました。この世代の方々に（仮）ホッとプランの施策が伝わってほしいと思います。市民に発信する手段をたくさん望みます。	今後、市民・地域活動団体・事業者等の皆様から賛同を得られるよう、あらゆる手段を検討し、広く周知を図ってまいります。
116	全体的に抽象的でやや理解しづらい印象があります。 地域で何を目標しているかもわかりにくいと思いました。	本プランは、個々の施策とその施策に紐づく取組の方向性をお示ししております。個々の具体的な取組内容は、各分野の個別計画にて掲載し実行してまいります。 10 年後の地区の将来像や目指す地区の姿を描いた「わたしの地区の未来ビジョン」につきましては、市内 10 地区ごとに開催する地区別懇談会でいただいたご意見をもとに、今後作成してまいります。
117	従来の「地域包括ケアシステム」の枠組中心の考えから「新しく創られようとする地域共生社会」の中に今後、地域包括ケアシステムが組み込まれる形になる様に思います。 新しく創られる地域共生社会とは、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる社会のことです（高齢者だけでなく、障害者、子ども、生活困窮者を含む）。地域共生社会の実現に向けて国は「地域力の強化」を掲げています。そのためには①自分や家族が暮らしたい地域を考える、②地域で困っている課題を解決する、③1 人の課題から解決するプロセスを学び学習することが必要とされています。これら①～③を行うために以下の問題提起を行います。 ①組織化 地区協議会の枠組でなく、新しい共生のまち作りの枠組みが必要。	①「新しく創られる地域共生社会」が中学校区の範囲で立ち上げられる新たな組織をもって推進すべきとのご意見につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。 ②ご指摘いただきました「新しく創られる地域共生社会」につきましては、基本理念にも記載している内容であり、まさに本プランの目指す社会像であると認識しております。そのため、高齢者に対応した地域包括ケアシステムだけでなく、障がい者、子ども、生活困窮者等を含め、全分野に対応した本プランについて、わかりやすくお伝えできるよう動画を作成し、公表させていただく予定です。これにより、今後皆様が自分や家族の住む地域について考えるうえでの一翼を担えればと考えております。 ③地域の高齢者や障がい者の日常生活を支援し、住み続けたいまちづくりを目指す成瀬お助けたいの活動は、地域自らが課題に向き合い、解決を図る取組であると認識しております。このよう

	地区協議会は、地区連合会の単位ですが自治会の組織率は 50%以下であり、また成瀬・成瀬台地区には地区協議会から脱退している。地域包括ケアシステムの考え方に則し、中学校区の範囲で考えるべきであり、成瀬・成瀬台地区に、芝生の会の様な組織を新たに立ち上げるべきと考えます。 ②学習機会 地域包括ケアシステムの分かりやすい動画が必要です。住民が、それを見て学習し、①自分や家族が暮らしたい地域を考えることは価値があります。 ③成瀬お助けたい ②地域で困っている課題を解決するために、成瀬お助けたいの様な活動を推奨すべきと考えます ④町田市としての取り組み 町田市としては何を行うかを明確にして欲しい(例見守りのための ICT の活動 etc)	な活動が、市内各地域において、様々な主体により取り組まれることとなるよう、計画を着実に推進してまいります。 ④本プランの第5章では、取組施策における多様な立場の主な役割を、市民・事業者、地域活動団体、行政・社会福祉協議会ごとに明確化しております。より具体的な取組内容につきましては、この方向性に基づき、今後検討してまいります。
118	文字が小さいので読みにくいです。フォントサイズは最低でも12ポイント欲しい。	本プランがより読みやすいものとなるよう、工夫を行ってまいります。

4. その他 (9 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
119	コミュニティセンターにどれだけの市民が来ているのでしょうか。地下の片すみに置いてある。1ヶ月でご意見をどれだけ集められるのでしょうか。	パブリックコメントは、多くの方のご意見をいただけるよう、コミュニティセンターだけでなく、市庁舎窓口をはじめ、各市民センター、各連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、男女平等推進センター、生涯学習センター、健康福祉会館、ひかり療育園、子ども発達支援センター、各高齢者支援センター、各障がい者支援センター等で配布しております。 さらに、今回はHP上でご意見をご提出いただけるような手法を加えさせていただきました。
120	学校の数が減るなら、質のよい教育をする絶好のチャンスです。 私は学年2クラスという小規模で教育を受けました。学習内容もよく分かったと思いますし、友人関係は卒業後何十年と同窓会を開けています。	将来の児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化が進行する10年後、20年後に町田に生まれ育つ未来の子どもたちに、より良い教育環境をつくるための手段として、学校統合等を契機とした新たな学校づくりは必要であると考えております。

	高齢になっても同年齢の共通の話題で楽しむことができます。通学も小さい子が遠くまで通学するのは、いろんな意味で(交通事故、災害のときなど)危険です。存続を希望します。	また、通学区域の見直しに伴う通学路の安全確保や負担軽減などについては、基本計画の検討に着手する際に立ち上げる検討会の中で検討してまいります。
121	エネルギー問題 CO2削減に向けてSDGs再生可能エネルギーは地方自治体で考えるべきです。	再生可能エネルギーの普及・導入につきましては、同時策定中の「第3次町田市環境マスタープラン」に基づき推進してまいります。
122	ゴミ袋の有料をやめ、税金でその分を集めた方がよいと思う(ゴミの不法投棄があとをたたないから)。 そのかわり、定期的に民生委員等が各家庭をまわり、聞き取りを行えば、困っている人を即座に助けることができるのでは(その時にゴミ袋を配る)。	家庭系ごみ処理手数料は、ごみの減量、分別の徹底などを目的に各家庭にごみ排出量に応じてご負担いただいております。 ご意見の趣旨につきましては、「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画」に基づき検討してまいります。
123	忠生公園について、二箇所のトイレがありますがその防犯状況が大変気になっています。もう少し明るくする、不審者が潜みにくい構造に、警察に即SOSが繋がるボタンを設置するとか何か改善策はないでしょうか。犯罪も、犯罪者も出してはならない、どうかご一考いただけたらと思います。	ご意見の趣旨につきましては、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
124	玉川学園地区社会福祉協議会が実施した生活アンケートによると、「街の中に緑が減少して寂しい」という感想や嘆く声があります。 この町に居住する多くの人は「駅を降りて町を歩くと緑が多くホッとする街並みで癒される」と話します。この地域は民地や道路や堺に多くの桜類が植栽されています。寿命の限られた樹種や破損や菌類により衰調するものもあり生物として循環は当然と考えます。 近年道路にある桜が道路管理課により伐採されるケースが多くあります。道路管理上植替えはできないと実施されません。ホッとする景観を形成したものが再生されずいます。 担当部署は景観の維持に消極的でミッションがなく再生の意図や方針がないからと考えます。環境に関する部署は机上のプランや状況把握だけで実施する予算や能力をもっていません。どのようにしたらできるか少なくとも地域住民と検討し、もとのままでなくとも何らかの再生計画を検討し実行できる体制をつくるべきと考えます。	

125	モノレール反対 景観権というのを玉川学園では獲得しました。町田駅近くの景観が著しく損ねることになるモノレールに反対します。費用も大変です。 地震など先日もありましたが、コンクリート、鉄骨の寿命を、長いこと考えてみてください。	多摩都市モノレール延伸や道路・公園整備などの都市づくりにつきましては、同時策定中の「町田市都市づくりのマスタープラン」に基づき推進してまいります。
126	「主旨は 40 万都市のインフラ整備の未熟さ」です。 上記のプランもインフラ整備が在っての住民向けプランです。まず、災害時の基幹的総合病院は 40 万都市に見合う物とはお世辞にも言えません。 また鎌倉街道の旭町から今井谷戸の工事の終了は何時でしょうか。他に、「芹ヶ谷公園地区」は版画美術館が出来てから 30 年以上「ユニバーサルデザイン」とは無縁です。地域住民に「近くて遠い公園、リハビリ強化公園」と比喻され、高齢者や障がい者には車が不可欠にも拘らず、駐車場は手狭、ここでのイベント等は高齢者の参加は極めて低調です。 さらに、ここに博物館を転居する計画でも、ユニバーサルデザインは二の次で、高齢者や障がい者は勿論、徒歩で来る住民からも全く不評で賛同し難い物です。この現象は市の種々の施設でも確認・検証できます。将来の管理移管への配慮は解りますが、根本からの修正が必要と思われます。	
127	平和問題 頭の上を飛行機がとぶのをやめてもらいたい。	騒音被害が解消していない現状を重く受け止め、今後も国と米軍に対し、粘り強く要請を行ってまいります。